



すももの花は春に一齐に咲く（更別村）

道経連会報 No.275 CONTENTS

巻頭言	1
「2050北海道ビジョン～『課題解決先進地域』のフロントランナーを目指して～」の公表について	2
特集 ジョブ型研究インターンシップの先行的・試行的取組に向けて	27
2022年度国の施策および予算に関する要望活動について	30
HAPに対する支援を国土交通大臣に要望	34
常任理事会レポート	35
道経連カレンダー	35
委員会等の動き	36
会員企業紹介	39
会員の異動	43
グループ活動報告	47
北海道の経済動向	54
人事・労務相談日	56
事務局人事	57
Face to Face	57
会報誌読者様へのご願い	58
わがまち紹介（シリーズ45）	59



北海道経済連合会 常任理事

大槻 博

北海道ガス(株) 代表取締役社長

2050への展望と雑感

コロナ禍の中、昨年10月に「2050年カーボンニュートラル宣言」が出され、この春には2030年温室効果ガス46%削減（2013年度比）目標が掲げられた。

都市ガス業界も日本ガス協会が中心となり「カーボンニュートラルチャレンジ2050アクションプラン」として実行計画を纏め動き始めたところである。

- ① 徹底した天然ガスシフトによる低炭素への取組
 - ② カーボンニュートラルメタンとしてメタネーション実装への挑戦
 - ③ 水素直接供給への挑戦
- 以上、三つが柱である。

何れも簡単なことではなく、特に②と③はメタネーション技術の商用化や水素の製造・調達・輸送・利用など技術的且つ経済的困難をいかに克服できるかに掛かっている。道程は遙かだが、叡智を集めチャレンジである。

ここで、北海道ガスの2030年に向けた取組について若干紹介したいと思います。

その基本となるのは、「天然ガス+省エネ+再生可能エネルギー」により、低炭素社会の

基盤をつくり、Dxによりデジタルプラットフォームを構築し、合理的で機能的な省エネ社会を目指すことです。

何故、省エネかと言うと、エネルギー消費規模を小さくすることは選択肢を広げ、社会、消費者の経済的負担の受容性を高めることになるからです。

脱炭素への王道は省エネであると言っても過言ではないでしょう。

また、今年3月にカーボンニュートラルLNGを初めて導入しました。年間輸入量の1割程度ですが、消費で排出されるCO₂を約10%削減することになり、継続的な調達を目指します。

もう一つは、北海道に賦存する地域資源の活用です。風力、太陽光、地熱、バイオ等の自然エネルギーは勿論、CO₂を吸収する広大な森林も貴重な資源です。

道内の市町村との連携により、地域資源の活用、環境保全等を推進し、北海道独自のモデルづくりを推進していきます。

話は少しそれますが、表の世界人口の推移をご覧ください。アジア、アフリカを中心にした人口増加である。このまま行くと何れ地球はパンクである。

脱炭素の陰に隠れて目立たないが、貧困、飢餓、難民、教育、医療、食料、水等こちらも



カーボンニュートラルLNG船の着棧

地球規模の問題であり、同様に深刻である。我々の俯瞰力が問われている。

年次	世界						
	(100万人)	アジア	北アメリカ	南アメリカ	ヨーロッパ	アフリカ	オセアニア
1950	2,536	1,405	173	169	549	228	13
2000	6,143	3,741	312	522	726	811	31
2020	7,795	4,641	369	654	748	1,341	43
2030	8,548	4,974	391	706	741	1,688	48
2050	9,735	5,290	425	762	710	2,489	57

世界人口の推移（1950～2050年）

ところで、コロナ禍の中、本年7月110周年を迎えることができました。紙面をお借りして感謝申し上げます。

振り返ると100周年の2011年には東日本大震災があり、この間エネルギー完全自由化も始まり、社会が大きく変化した10年でしたが、コロナ禍の先はどの様に変化していくのか。

彼の洪澤栄一氏が北海道ガスの設立に関わった一人で、著書に「論語と算盤」が有名ですが、勝手に解釈すると「社会を良くする事業は成長持続する」となるのだが。

北海道ガスが掲げる理念は「エネルギーと環境の最適化による快適な社会の創造」。

次代を担う若い世代には、「青天を衝け」が如く困難に挑んでもらいたいと切に願う今日この頃です。



北海道ガス本社社屋